

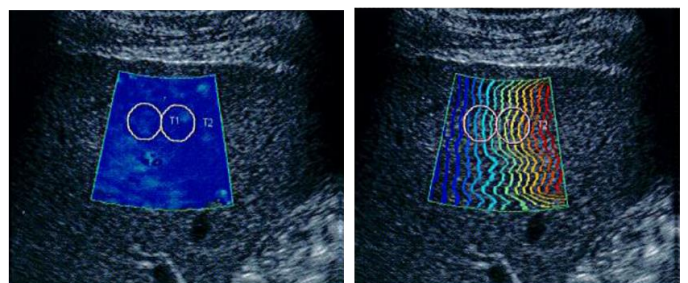
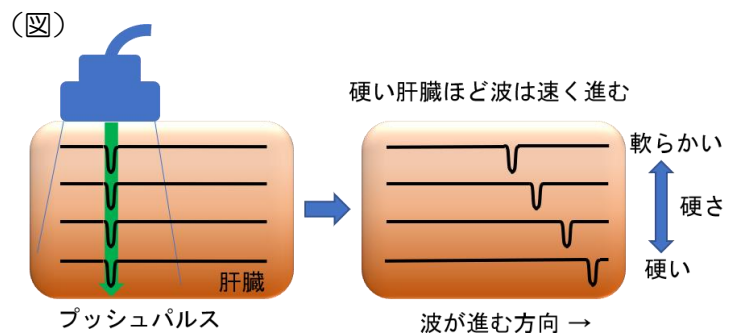
■ ■ 超音波検査で肝臓の硬さを調べられるようになりました ■ ■

消化器科 中山 聡

三宿病院には毎日多くの肝臓病の患者さんが見えになります。そして、ほとんどの患者さんに血液検査や画像検査を定期的にお受けいただいております。これは、慢性の肝臓病では、病気の進行により肝臓が硬くなってしまふことで、肝臓の働きが低下し、肝臓内の血液の流れに異常を来すことがあるためです。肝臓がんも肝臓が硬くなるにつれて発生しやすくなります。肝臓の硬さを把握することは、肝臓病の治療方針や、肝臓病にともなう様々な合併症の予防や早期発見のためにとっても重要なのです。

このたび当院では新しい超音波診断装置を導入し、肝臓の硬さを測定できるようになりました。これを肝硬度(かんこうど)測定といいます。肝硬度測定はすでに多くの医療機関で行われており、肝臓の組織検査と肝硬度測定値とを比較した研究により、硬くなった肝臓(肝硬変)をかなり正確に診断できることがわかっています。

検査は肝臓の表面から、プッシュパルスとよばれる波を肝臓内に送り、肝臓内を横に伝わっていく波(せん断弾性波：せんだんたんせいば)の速さを測定するものです(図)。肝臓が固いほど、この波は速く伝わります。そして測定した波の速さを特別な計算式に入れて、肝臓の硬さを計測いたします。検査は肝臓の超音波検査と同時に行うことができ、通常の観察に数分を費やすだけで終了です。痛みはまったくなく、何回も繰り返して測定することができます。患者さんによっては、せん断弾性波をうまく測定できない場合もありますが、ほぼすべての肝臓病の患者さんで肝硬度測定は有用です。



実際の検査画像

肝臓が悪いといわれた方、あるいは、すでに肝臓病で通院している患者さんで、これまで肝臓の硬さを調べたことがない方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度ご相談下さい。